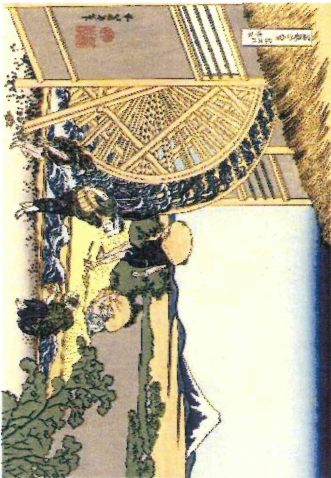


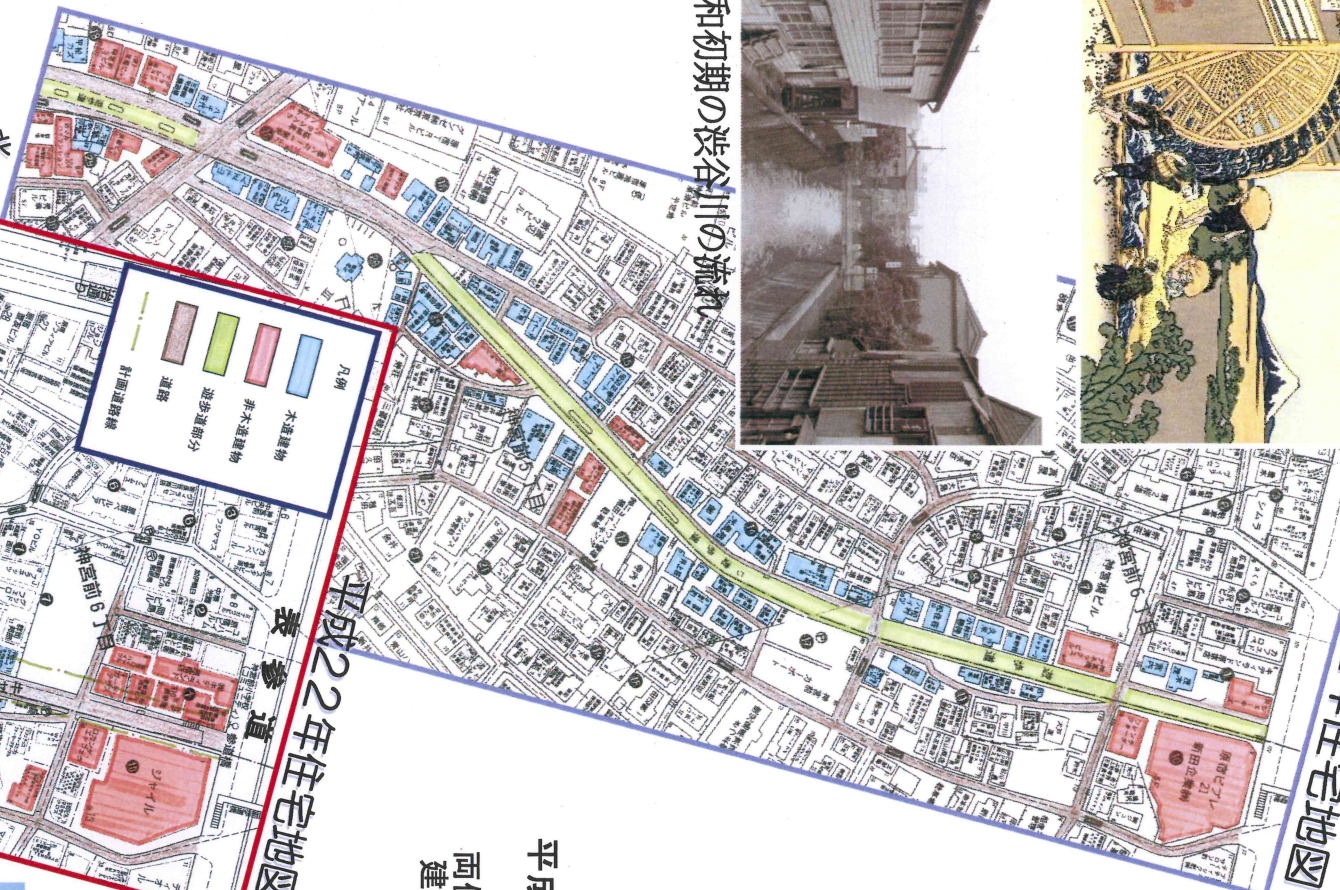
渋谷の街並みシリーズ Vol.1 変貌するキャットストリート

平成2年と平成22年との比較

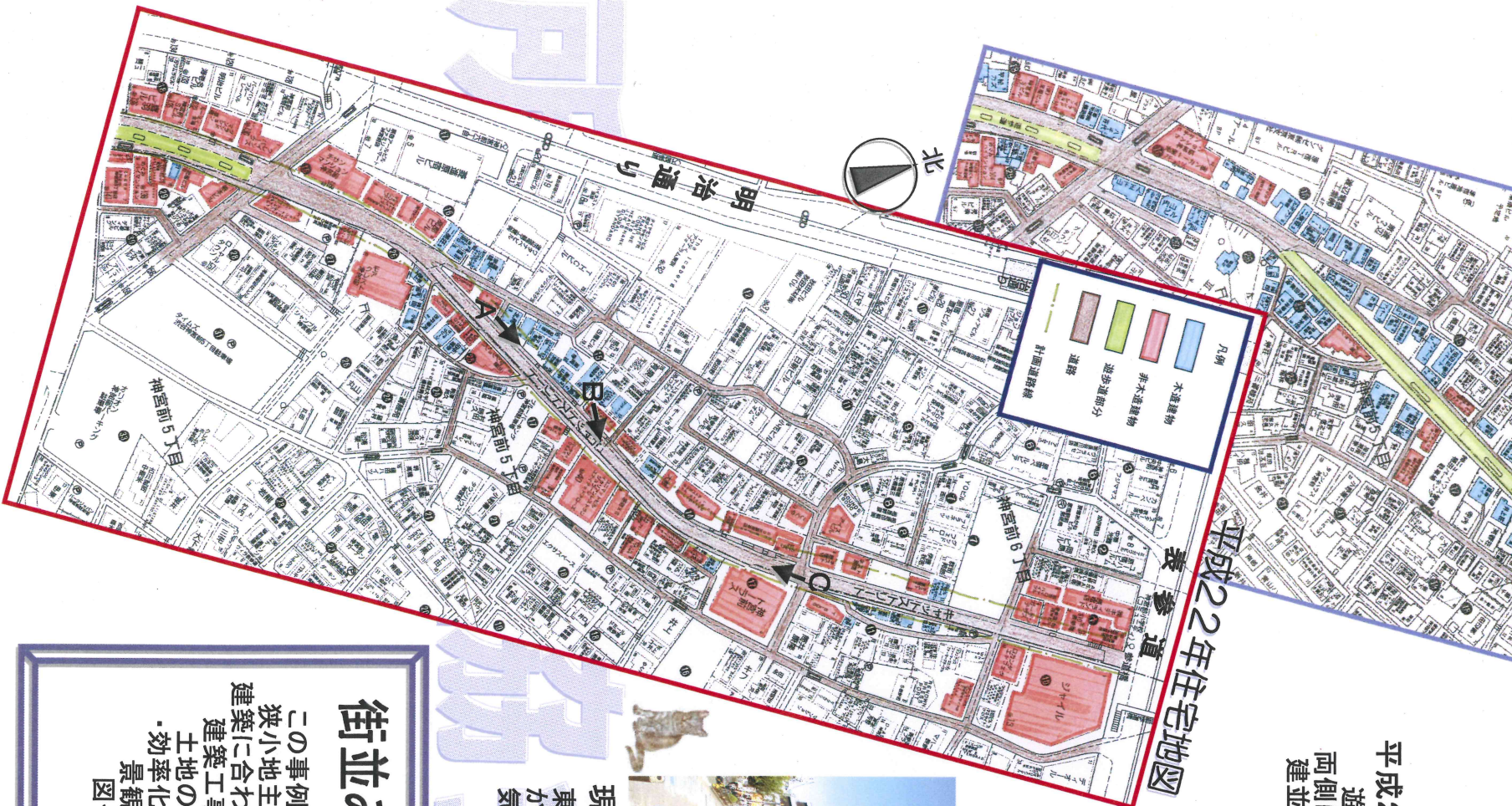
葛飾北斎の「富嶽三十六景・稲田の水車」



平成2年住宅地図



昭和初期の渋谷川の流れ



表参道中程から明治通りの神宮前6丁目まで、斜めに走る旧渋谷川遊歩道は、今では「キャットストリート」という愛称で呼ばれ、竹下通りから流れる若者が闊歩する街並みとして変貌している。

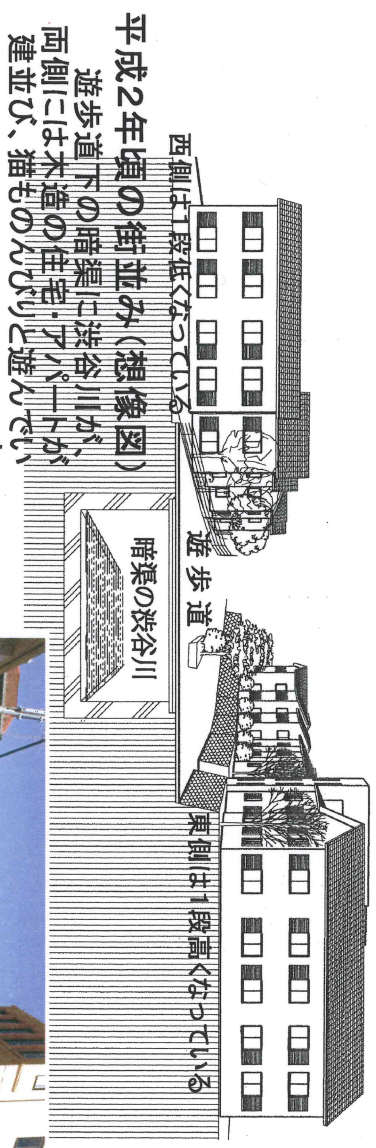
昔、この周辺は葛飾北斎の富嶽三十六景「稲田の水車」に見られるとおり、「渋谷川」が流れている伊賀衆の隠れ田圃といわれておりました。

その後、昭和39年の東京オリンピックに向け、「渋谷川」が暗渠にされその上が昭和42年に遊歩道として整備されました。しかしその頃は都市計画道路が計画されているのも拘わらず、遊歩道も道路として認定されいかなかったので建替えもなかなか進みませんでした。

地域の要望に応え、平成8年渋谷区が緊急車両用道路も兼ねた再整備を行い区道認定がされ、それ以降は建替えが大きく進むようになりました。今では洒落た店舗が並び、車の通行量も少ないので休日には多くの人々が訪れている。



稲田や 人にぎわいに 猫いずこ (花祭)

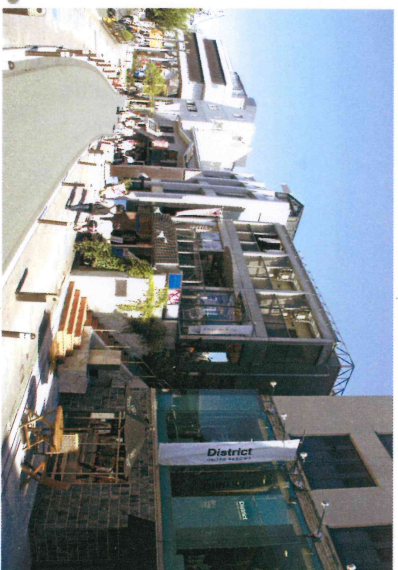


平成2年頃の街並み(想像図)

遊歩道下の暗渠に渋谷川が、両側には木造の住宅・アパートが建並び、猫ものんびりと遊んでいた。

現在の街並み A

東側(右側)は道路方位と敷地に計画道路が掛かっているため高い建物が建っている。
西側(左側)は計画道路が敷地に掛かり、非木造でも3階建てである。木造建物も建替えは進んでいる。



現在の街並み B

東側(右側)は敷地が1段高く裏通りからのアプローチが路地店舗の雰囲気醸成している。

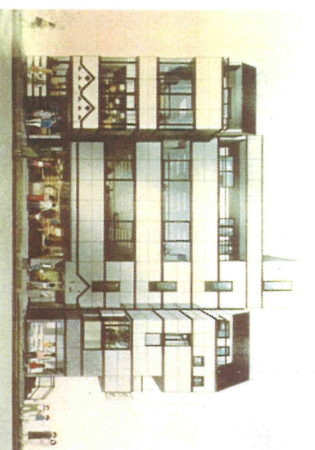


現在の街並み C

この建物は敷地が広く、計画道路部分をオーゾンスペースとして活用し、道行く人々の溜まりとなっている。

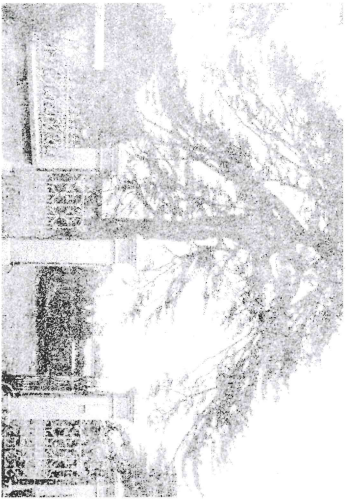
街並み再生の手法ー1 共同建築化

この事例は両隣の狭小地主が中央の建築に合わせ共同で建築工事を行い、土地の有効利用・効率化とともに、景観の統一を図っている。

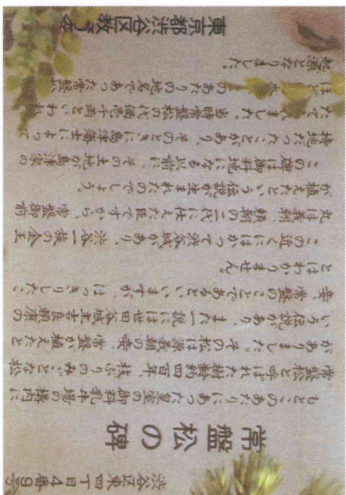


渋谷の街並みシリーズ 2011 Vol.2 学術の街のキャンパスストリート

常盤松の地に広がる教育・文化施設



明治末期の常盤松と皇室御料乳業場の写真



常盤松の碑：渋谷区郷土資料館前にある

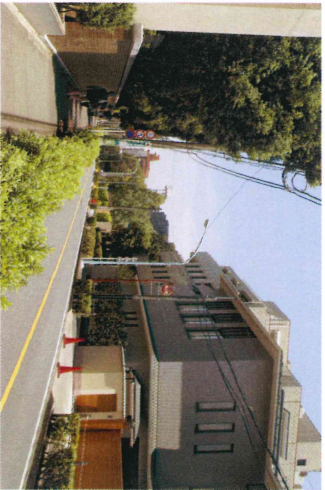
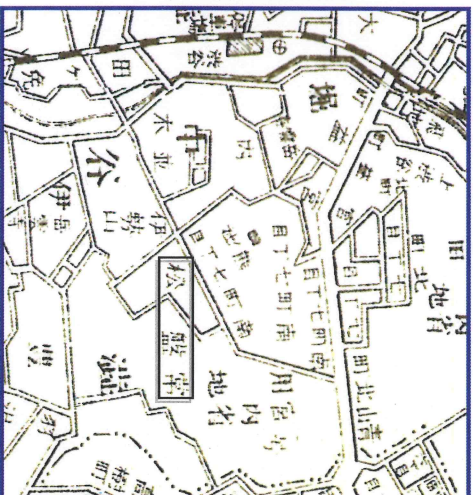


写真1：青山学院初等部の南側、国際友好会館から常陸宮邸へ落ち着いた雰囲気のある街並み



明治40年新東京地図：渋谷・常盤松、宮内省用地の地名が見える



写真2：実践女子学園の東側、ペルー大使館から国学院大学方面、壁面緑化が見える



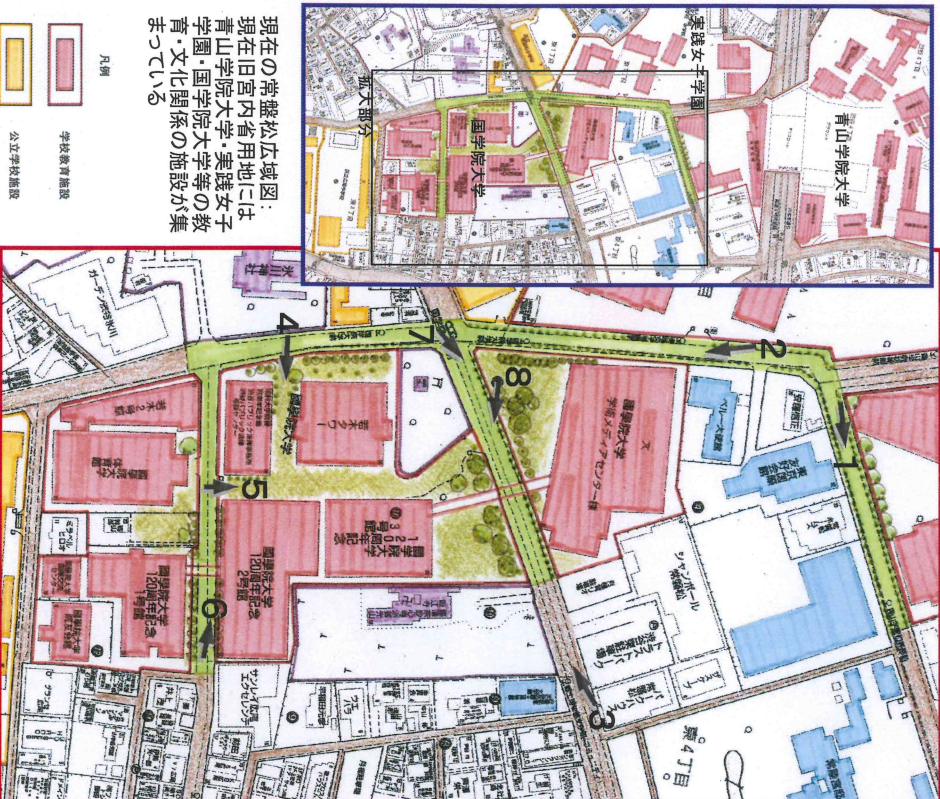
写真3：渋谷区郷土資料館から国学院大学方面、空中廊下が見える



写真4：氷川神社東側、南北の通り抜け通路へ続く校舎間通路



写真5：バス道路より南北の通り抜け通路を見る



- 凡例
- 学校教育施設
 - 公立学校施設
 - 神社・仏閣
 - 文化施設
 - キャンパスストリート
 - 道路

拡大図
1 →
写真番号・撮影方向を示す

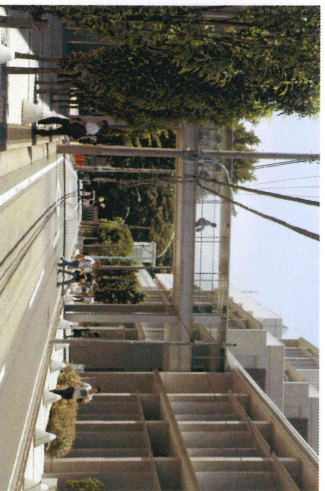


写真6：バス道路東側より空中廊下・歩道状空地を見る

その昔この地には常盤御前が植えたとも言われる「常盤松」がありました。現在戦火により消失した松の碑が残るのみですが、この地は教育・文化の地として整備・開発がされてきました。

学校施設は通常管理に都合がいいからだろうか、塀に囲まれた敷地に校舎が配置されている。

今回、渋谷区の街並みシリーズに取上げた國學院大學周辺の街路は、大学全体の敷地も広くなく3街区に分かれているためか、あるいはこれから大学の教育を考えた、学校の方針でもある開かれた大学づくりや、地域との連携を図るためか、建物位置を道路から後退させ開放された独特の共用空間を創り出している。また、建物外観もシャープな都市型デザインで統一を図り、植栽も壁面緑化・街路樹・シンボルツリーと充実している。

周辺施設とも相俟ってまさに開放された「キャンパスストリート」に機能している。

風薫る 学術の街に 我と汝 (花然)



写真7：中央交差点より広場状空地を見る、授業が終わり生徒たちが出て来た



写真8：広場状空地より南側空地を見る、空中廊下が見える

街並み再生の手法—2 総合設計制度

この事例は、道路に囲まれた1街区を、従前地権者が共同で組合を設立し、周辺地域に対し、歩道状空地・広場状空地・公共施設等の公開空地を計画することにより、高さ制限の緩和、容積率の割り増し等を受け、地域・環境への貢献、形態の統一を図る制度。

